2023 年12月
No.14
小牧市障害者団体連絡会通信

つながって → ひろげる

選挙のバリアフリーを進めよう！

共同代表 山中和彦

今年度、小牧市障害者団体連絡会では、小牧市市民活動助成金の交付を受けて、「選挙のバリアフリー」に取り組んでいます。

選挙権はどんなに障害が重い人にも保障されています。しかし、障害がある人が実際に投票しようとすると、障壁となるもの（バリア）があるといわれています。

このバリアを取りのぞこうとする活動が、今、全国に広がりつつあります。

****

8月27日 講演会「選挙のバリアフリーとわかりやすい選挙情報」の開催

****

一つ目の取り組みとして、京都産業大学の堀川諭先生をお招きして、「選挙のバリアフリーとわかりやすい選挙情報」をテーマに講演していただきました。

堀川先生は、**障害者基本法第 28 条には**、「国及び地方公共団体は、法律又は条例の定めるところにより行われる選挙、国民審査又は投票において、**障害者が円滑に投票できるようにするため、投票所の施設又は設備の整備その他必要な施策を講じなければならない**」とされていることを指摘され、具体的に東京都狛江市の投票支援がどのようになされているのか、紹介をしていただきました。

東京都狛江市では、手をつなぐ親の会と連携をとって、次のような活動をされてきました。

・2013 年 7 月参院選に向け、初の体験投票
・2014 年 1 月初のわかりやすい演説会（都知事選）
・2015 年 4 月市議選に向け、わかりやすい選挙広報誌作成
・2016 年 5 月市長選に向け、わかりやすい演説会
・2016 年 10 月～模擬投票などの DVD 製作プロジェクト始動 全国の知的障害者団体に配布
・2017 年 10 月衆院選に向け、東京都第 22 区候補者の「わかりやすい政見動画」

これらの投票支援について、「知的障害者向け投票支援は『みんなにとっての分かりやすさ』につながるのではないか。『ユニバーサルな投票のしやすさ』につながるのではないか」とのお話がありました。

▲第 2 部の意見交換会では、選挙のバリアフリーに向けて困っていることについて話し合いました

参加者からは「選挙に参加することは、その前提として民主主義的な経験（職場で意見を出し合う、学級委員の選挙など）の経験がないと理解が難しいとの説明が印象に残りました。こどものころからこのよう経験ができることが重要だと感じました」、「障害を問わず、わかりやすい選挙は必要だと思う。 公報は、難しい言葉をできるだけ省き、理解しやすい内容にしたり、 拡大文字版や点字版、音訳版 CD の配布、手話通訳版動画配信など、 市町村単位での選挙では時間的制約もあるだろうが、 高齢者も含めた、あらゆる人にやさしい選挙であってほしい」などの意見が寄せられました。

****

「選挙のバリアフリー推進」のための アンケートの実施

****

ふたつめの取り組み。障害のある人たちの投票に対する考え方などを知るためにアンケートを実施しました。

1 **実施時期** 2023年9月～10月
2 **実施方法** アンケートを障害者団体、障害福祉事業所に送付またはスタッフ(当該事業所利用者)から手渡し(1000通)
3 **回収方法** オンラインによる回答、受取人料金払郵便により郵送回答、スタッフによる手渡し回収 合計139通

重い知的障害のある人の家族からは、本人は障害が重くて、選挙が理解できないと諦めた様子の方もあれば、なんとか選挙を通じて障害のある子を社会にも認めてもらいたいとの思いを記される方もありました。

以下に、アンケート結果の抜粋を掲載します。

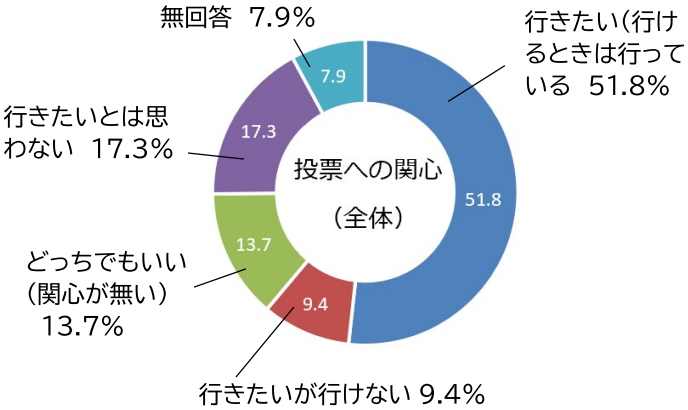
1 回答者

本人 83人 家族 55人 支援者 1人
合計139人※家族55人のうち、51人は知的障害のある人の家族です。

2 障害種別

視覚障害(20) 聴覚障害(15) その他の身体障害(35) 知的障害(67) 精神障害(30)
延べ数(167)

【質問3】投票への関心



【質問 4】投票所に行くのに困っていますか。(投票所までのバリア)

	全体	視覚障害	聴覚障害	他の身体障害	知的障害	精神障害
困っている	90	10	12	18	38	25
困っていない	30	9	1	13	15	3
無記入	19	1	2	4	14	2
合計	139	20	15	35	67	30

【質問5】投票所の中で困っていることはありますか。(投票所内でのバリア)

	全体	視覚障害	聴覚障害	他の身体障害	知的障害	精神障害
困っている	86	13	12	18	29	27
困っていない	25	6	1	10	15	2
無記入	28	1	2	7	23	1
合計	139	20	15	35	67	30

【質問6】選挙情報(立候補者の政策など)を知る上で困っていますか。

	全体	視覚障害	聴覚障害	他の身体障害	知的障害	精神障害
困っている	73	15	7	16	22	25
困っていない	35	3	4	11	23	4
無記入	31	2	4	8	22	1
合計	139	20	15	35	67	30

※アンケート結果の詳細は下記のアドレスからご覧いただけます。質問3～6について、どのようなことで困っているか、またどのようになってほしいかなど、具体的なご意見が多数寄せられています。

https://wp.me/pastch-fb

****

11月26日 ワークショップ「社会を変えよう！選挙に行こう！障害のある人の選挙のバリアフリーを進めよう！」の開催

****

3つ目の取り組みとして、ワークショップを開催しました。①前記のアンケート結果の報告とゲストに、②名古屋市内でこの課題に取り組んでおられる浅野美子さんからの報告を受け、また、③NHKの「みんなの選挙」のサイトの記事から全国の事例を学び、参加者で話しあいました。

▲浅野美子さん

3人の障害のあるお子さんをお持ちの浅野美子さんは、よかネットあいちの活動を通じて、得たものなどお話をいただきました。

まず、「わかりやすい情報提供ガイドライン」（厚生労働省）や「愛知県手話言語・障害者コミュニケーション条例」の紹介があり、選挙のバリアフリーの問題以前に、日ごろからわかりやすい情報提供の環境を整えているのか、問いかけがありました。

また、3人のお子さんが選挙のときにどのように準備をしているか紹介があり、他の人のやりかたも具体的に学ぶことで、いろいろな取り組みが広がっていく。大人や支援者が「この人たちは選べないのではなく選ばせていない」と気づかなければいけない。そして、選挙のときだけでなく、普段から、大人や支援者は、「指示する人ではなく、支援する人だ」ということを伝えなければならない。

事例を学び、障害のある当事者に伝えていかなければならない。障害があってもなくても、私たちは社会で生きているんだよ、ということ。災害のことを考えても同じで、いろんな機会に、本人さんといっしょに考えていく。そして声をあげていくことが大切、というようなお話がありました。

さらに、草の根で伝えていかなければならない。行政が机の上で考えるのではなく、当事者が自分たちはこうして欲しいということ、困っていることを可視化して伝えていくことが大切。確かに、障害の特性毎に違いはあるけれども、みんなで声をあげる取り組みが大切とのお話も。

いろいろな情報を提供してもらい、みんなが自分たちが行動しなければ、やらなければという気持ちになったお話でした。

参加者からは、「行政も障害者の理解が必要だと思いますが、当事者として困っていることはそれぞれですので、大変ではありますが、声を出さないと『ない』ことになってしまうと思いました。声を伝えていくことの大切さを感じました」との意見がありました。

▲名古屋市での浅野さんの取り組みや、全国の事例を知り、参加者からは前向きな発言が多数あがりました

****

これからの取り組み

****

NHKの「みんなの選挙」をはじめ、いろいろな媒体で、選挙のバリアフリーについての記事をみるようになってきました。私たちのイベントにそれぞれ、市議会議員の方が参加いただき、活動の意義についても理解していただきました。少しずつ広がってきているのだと実感しています。

この選挙のバリアフリーの取り組みは、障害者差別解消法に規定されている「合理的配慮の提供」を実現していく取り組みでもあります。障害のある人の日常生活における合理的配慮のきっかけとなると考えています。

障害特性別投票支援マニュアルの作成を目指していますが、これから各障害者団体に働きかけていき、いっしょに検討していきたいと考えています。御支援をよろしくお願いします。